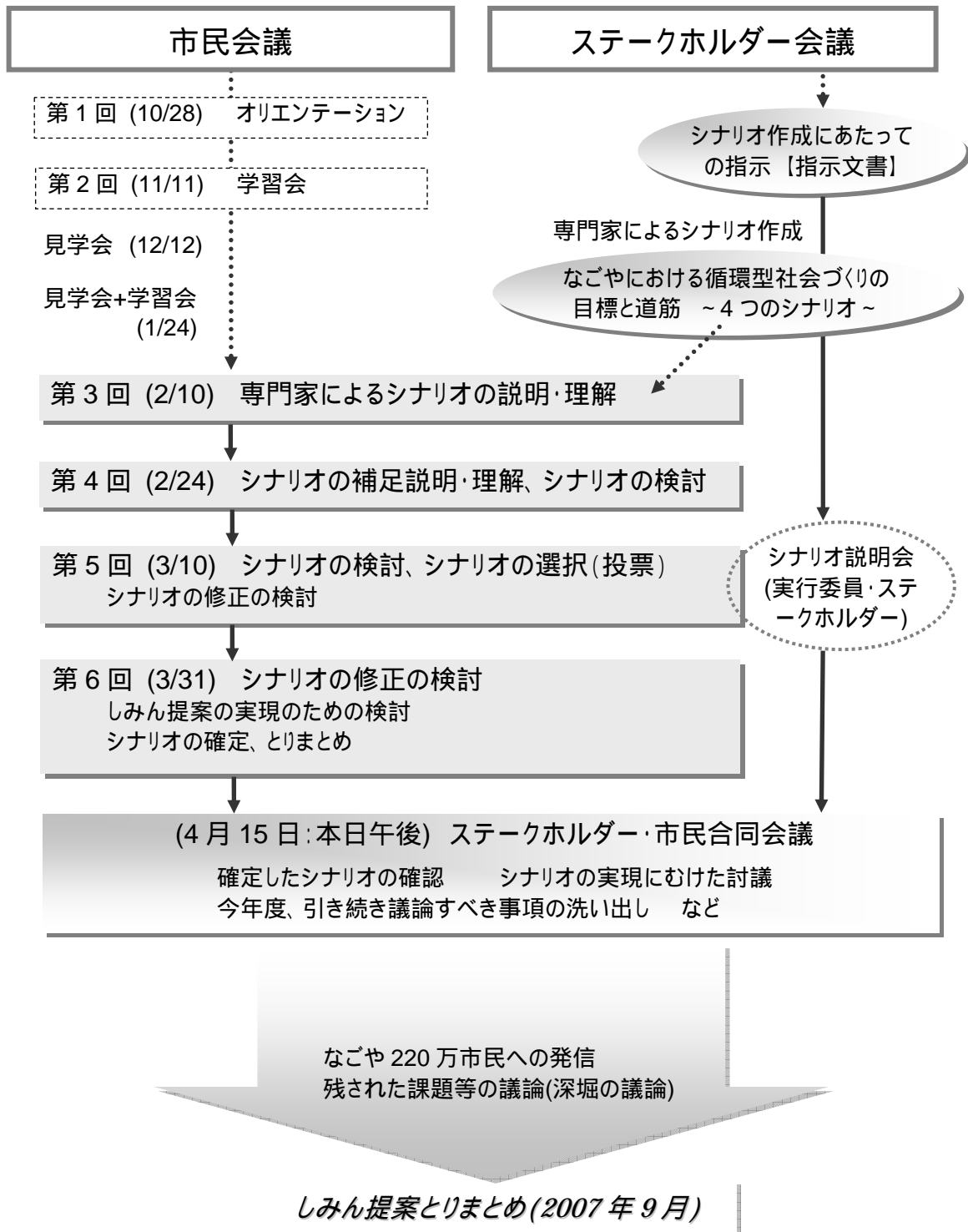


参加型会議の経過報告

1. 指示文書とりまとめ後の経過

第4回ステークホルダー会議(12/2)を経て、12/28に専門家によるシナリオ作成にあたっての指示文書がまとめられ、これを基に、専門家は、シナリオ案を4つ作成しました。

市民会議では、このシナリオを基に、なごやでの循環型社会づくりにおける「実現したい姿」の検討を進めてきました。



2. 市民会議の結果(シナリオの選択から、しみん提案の取りまとめまで)

第5回市民会議(3/10)

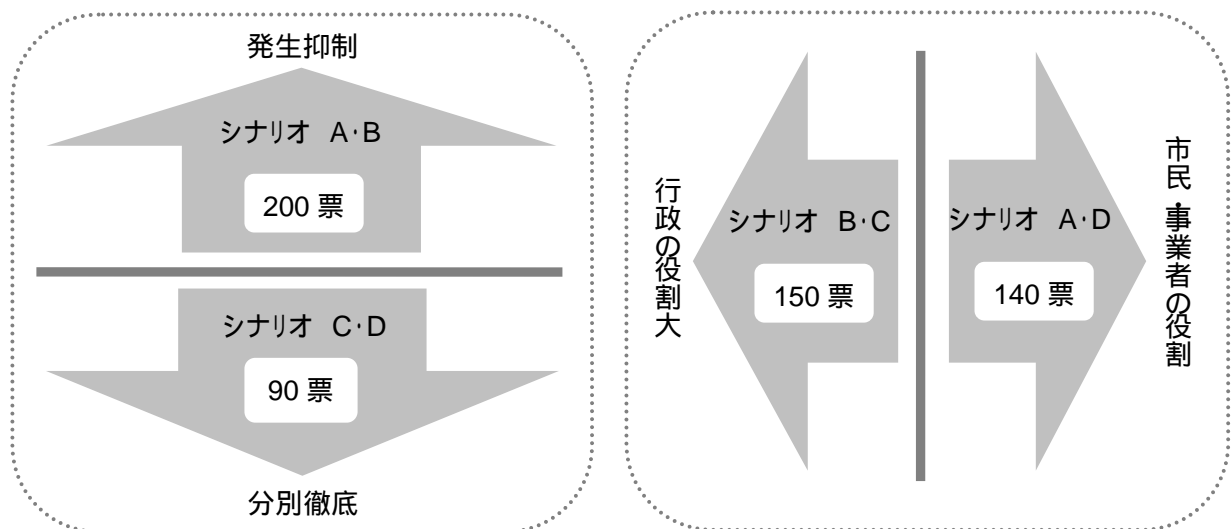
第5回市民会議では、次に示す4つのシナリオのうち、「市民・事業者の役割を増やすことで、ごみ+資源の総量を減らす！」ことを基本の考えとするシナリオAを選択しました。

	行政の役割大	市民・事業者の役割大
ごみ+資源の総量を減らす！ (発生抑制とリサイクル)	シナリオB 行政による積極的な3R施策を 市民・事業者が理解し協力することで ごみ+資源の総量を減らす！ 得票数 97	シナリオA なごやを構成する全ての“しみん”による3R施策への 積極的な参画と実践により ごみ+資源の総量を減らす！ 得票数 103
ごみの量を減らす！ (リサイクル)	シナリオC 行政による積極的なリサイクル施策と 全ての排出者(市民・事業者)の分別徹底によりごみ の量を減らす！ 得票数 53	シナリオD なごやを構成する全ての“しみん”による リサイクル施策への積極的な参画と実践 によりごみの量を減らす！ 得票数 37

得票数は、第5回会議の28名の投票に、会議終了後(3/12)の不在者投票(1名分)を加えた、29名分の投票結果である。

(参考) 290票の内訳

290票の内訳をみたところ、シナリオの上(A・B)とシナリオの下(C・D)の投票数の違いは明らかですが、シナリオの右(A・D)とシナリオの左(B・C)は僅差となっています。



第6回市民会議

第6回会議では、Aシナリオに対する修正や留意事項などについて討議を行いました。

これらの意見は、専門家による協議、および全体討議を通じ、下表のように追加記述することが確認されました。

テーマ	意見	対応方針 (シナリオへの追加記述)
生ごみ	生ごみの分別排出は、生活が見られるようで抵抗がある。これまで通り、可燃ごみとして処理すべきではないか。 1人世帯、高齢者世帯を巻き込むためには、行政関与が必要ではないか。(取組みの体制として修正が必要である。)	市民、地域、行政の役割を検討していく場を設けます。また、具体化にあたっては、より深い検討を行っていきます。
	シナリオBに戻すという意味ではないが、考慮すべき点としての意味だ。 行政の係り方が分かりにくい。市民主体とは行政は何もやらないのか丸投げされては困る。 分別・リサイクルの経験者が少なく、判断が難しい。(今後の課題)原案のままではなく、……ニュアンスとして修正する。	
有料化	ごみを減らすことを目的とすると、必ずしも有料化が必要とは思っていない。教育・啓発などの取組みが重要。	さらに、 ・有料化の必要性 ・具体的な制度設計 などが必要です。
	有料化をすとしても、市民にとって具体的で分かり易い情報(マニュアルなど)が必要である。 何故、有料なのか?……現在の財政状況を考えると、有料化が必要!といった明確な理由が必要だ。	
取組主体	20~30年先を見据えた“行政としての構想”は必要。市民主体とは別の部分で、行政の役割・構想なども重要だ。市民から意見がでなかった場合、行政は何もやらないの?といった不安・誤解は避けるべき。その意味でも、行政としての将来展望を共有することが必要。どんなに市民サイドが頑張っても、国への提言や廃棄物処理施設の確保は、行政しかできない。このような部分(行政の役割)が確認できるような記述が必要だ。	しみん主導のシナリオにおいても、行政の役割は重要です。この部分も明確に示します。 ・行政としての将来ビジョン ・廃棄物処理施設の整備 国への提言 など
焼却について	ごみは永遠のもの。今後、最終処分場は確保しないと誤解を受けよう記述は避けるべきだ。行政として、今後の具体的な最終処分場確保策を検討すべきだ。	
容器包装以外のプラスチック類	今後の技術革新への対応など、シナリオを実現する際に、柔軟に対応する部分を確保する必要があるのではないか。	「残された課題」として提案して欲しい。